

とやまと自然

浜黒崎海岸自然調査特集

平成3年3月31日発行 通巻53号 年4回発行



【目次】

浜黒崎海岸の松林

浜黒崎海岸自然調査のあらまし		2
浜黒崎に降る雨	朴木 英治	3
減った植物 増えた植物	太田 道人	4
砂浜のおもしろい昆虫たち	根来 尚	6
小動物たちの移り変わり	布村 昇	8
さまざまな環境にすむ動物たち	南部 久男	10
おしらせ		12

浜黒崎海岸自然調査のあらまし

調査のねらい

富山市科学文化センターでは、市内の自然の調査の一環として浜黒崎海岸を調査しました。この地域の自然については昭和53年～55年度に調査が行われましたが、その後10年が経ちましたので、再び、調べたものです。

なお、今回は調査範囲を岩瀬浜まで広げ、河川や酸性雨等の項目を追加しました。

期 間

平成2年度、年4回（5，7，10，1月）の一斉調査と項目ごとに補充調査を行いました。

調査地点

常願寺川河口から、岩瀬浜まで調べましたが、そのうち、特に重点を置いたのは下の地図に示す7ヶ所でした。

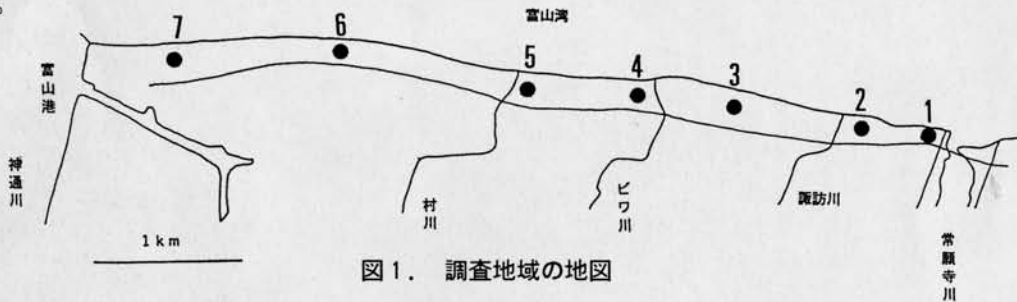


図1. 調査地域の地図

1. 横越 2. ユースホステル裏 3. 浜黒崎小学校裏 4. 日方江東 5. 日方江 6. 大村
7. 岩瀬浜

調査項目と調査者

植物	太田 道人	科文セ	鳥類	日出島哲夫	富山県野鳥保護の会
昆虫	瀬川 哲夫	山室小学校	魚類	福田 保	富山女子高校
	根来 尚	科文セ	魚類等	南部 久男	科文セ
貝	宮本 望	科文セ	水質等	朴木 英治	科文セ
小動物	布村 昇	科文セ	ほ乳類	山本 茂行	富山市ファミリーパーク

このほか広瀬栄夫さん、高島利男さん、富山市ファミリーパークの方々、全国の大学や博物館の多くの先生方の協力を得ました。

調査結果のあらまし

項目ごとの結果は次に記しますが、全体として、

- ・海中は侵食防止のための波消しブロックがたくさん置かれ、一部は海浜そのものがコンクリートで護岸されてきました。しかし、全体に魚貝類の種類は10年前と大差はありませんでした。
- ・海浜は、護岸の建設等がありましたが、海浜植物やそこに来る昆虫の種類数は減少していないようです。
- ・松林の林内は、サイクリングロードの建設等により、10年前にくらべ、明るくなった場所が多いようです。また、都市化のためか、帰化植物の増加が見られました。

浜黒崎に降る雨

はじめに

富山市科学文化センターでは以前から科学文化センターのほか、南は月岡地区センター、北は萩浦地区センターで酸性雨の観測を同時に行ってきましたが、海岸のすぐ近くの場合の酸性雨の様子を調べるため、浜黒崎調査に合わせて浜黒崎地区センターでも、昨年(1997)の5月から観測を始めました。

雨の調べ方

観測を始めた5月から1月までの間に合計で25回の試料の回収をし、そのうち24試料について分析を行うことができました。

さて、試料が酸性雨かどうかを調べるときは、pHメーターを使います。

pHは酸性やアルカリ性を示す数字で、0から14まであり、7が中性、7よりも数字が小さいと酸性を、7よりも数字が大きいとアルカリ性を示します。

酸性雨の区切りは実はこの7ではなく、少し酸性の5.6と決められています。これは、水の中に空気中の炭酸ガスが溶け込んだときのpHの値です。

つまり、集めた雨にpHメーターの電極をいれ、メーターの示す数字が5.6よりも小さかったら酸性雨となります。そして、この数字が小さいほど強い酸性雨であることを示します。

浜黒崎でも酸性雨だった

浜黒崎では24試料のうち23試料が酸性雨でした。また、科学文化センターでは24試料のうち22試料が酸性雨でした。ということは、どちらの観測場所でもほとんどの雨が酸性雨だったということに

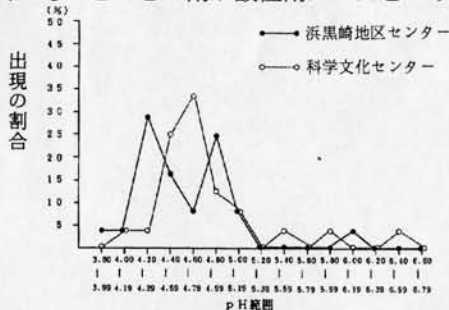


図1. 雨の酸性度の分布

なります。

また、浜黒崎で採集した最も強い酸性雨は7月24日から7月28日にかけてのもので、そのpHは3.97でした。これは酸性雨としては強いものですが、その酸の強さを大ざっぱに例えるならば、レモンジュースを100倍ぐらいに薄めた程度の強さだと考えてください。この時は、他の3か所の観測点でも同じような強さの酸性雨が降りました。

図1は一定のpHの範囲の中に、どのくらいの割合の雨が含まれるかを見たとものです。浜黒崎ではpHが4.20-4.39と4.80-4.99に入る雨の割合が多く、科学文化センターでは4.60-4.79がいちばん多くなっています。

次に、図2に月毎の平均のpHを示しました。

図からわかるように、浜黒崎も科学文化センターも月毎の平均値は、すべて酸性雨になっています。月毎の平均値を比べてみると、8月と10月を除いて浜黒崎の方が科学文化センターよりもやや低めのpHとなりました。また、観測を始めた5月から1月までの全試料の平均でも、浜黒崎は科学文化センターよりも少し低くなっています。ということは、浜黒崎では科学文化センターに比べて、大きな違いはないのですが、やや強い酸性雨が降っていたと言えます。

酸性雨の強さは、酸性の成分とそれを中和するアルカリ性の成分のバランスによって決まるので、たぶん、浜黒崎ではアルカリ性の成分が科学文化センターに比べて少したりないのかも知れません。これについては、雨に溶けている成分の分析結果が全部まとまってから考えたいと思います。

(担当: 朴木 英治)

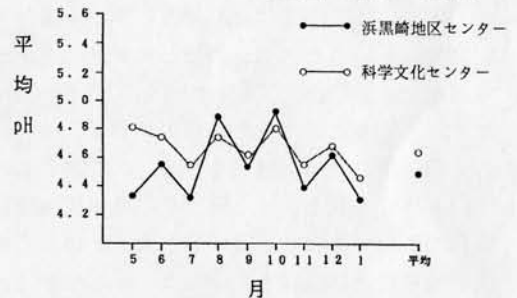


図2. 雨の酸性度の月別平均

減った植物 増えた植物

はじめに

ある地域を決めて、一度そこに生えている植物を調べて、また何年かして同じ範囲を調べてみると、植物の種類が変わっていることがあります。

今から10年前、富山市教育委員会が浜黒崎に生えている植物の種類を調べました。それから10年たった去年、ほぼ同じ範囲を再調査し、種類を比較してみました。

その結果、表1のようになりました。減った植物がほんのわずかなのに対して、増えた植物がたいへん多いことがわかります。

さて、このことは何を意味しているのでしょうか。

減った植物

まず、減った植物について考えてみましょう。

このような調査でいつも問題となるのは、「見つからなかった」と「無かった」の違いです。1本でもどこかで見落としていれば「無い」のではないので、普通は見つからなかったということにします。表の見つからなかった植物で、たぶん見落としただけだろうという植物を消していくと、残るのは、私はイソスミレだけだと思います。この植物は、富山の他の海岸でもたいへん減ってしまっているので、おそらく浜黒崎からはなくなってしまったと考えます。

増えた植物

増えた植物のうち、外国からやってきて日本にすみついた帰化植物を数えてみると27種類もありました(表2)。帰化植物は、暗い林や密集した草をきらって生えませんが、明るくて裸地になっているところではよく生長します。帰化植物が増えたということは、調査した範囲に道がつくられたり、建物がたてられたりして明るい環境がたくさんふえたことを物語っています。

そのほかに増えた種類を見ると、校庭のすみや川原、林のヘリといった開けた明るい環境を好む植物が目につきます。このことも、そのような環境が増えたことを示します。

また、この中には、今回見つからなかった植物

があるように、前回見落とされていた植物も含まれています。

変わらなかった植物

明るい環境を好む植物が新たに増えている一方で、変化していない植物もたくさんありました。クロマツ林の中に生える主な植物や砂浜の植物です。このことは、調査した範囲に10年前と同じ環境が多く残っていることを示しています。しかし、調査範囲は、ほぼ一定ですから、明るい環境が増えている分だけ、もとからあった環境の面積は減っているはずですが、つまり、ある植物にとっては今生きている場所が最後の生育場所であるかも知れないのです。

おわりに

この10年間で、砂浜が波にけずられたために、がんじょうな防波堤がつくられたり、サイクリングロードや建物ができたり、クロマツの植林が進められたために植物の生育環境に大きな変化がありました。

(担当：太田道人)



図1. イソスミレ

(北隆館、牧野新日本植物図鑑より)

表 1. 浜黒崎の植物の種類10年間の変化

() は科の名前

環 境	減 っ た 植 物 (見 つか ら な か っ た 植 物) 35 種 類	増 え た 植 物 115 種 類
砂 浜 の 植 物	イソミスミレ (スミレ) 1 種 類	な し
畑や校庭、川原などの 明るい場所に生える 植物	カラスムギ (イネ) ノミノツツリ (ナデシコ) ミミナグサ (ナデシコ) スミレ (スミレ) ヒヨドリバナ (キク) など17種類	ゲンノショウコ (フウロウソウ) コニシキソウ (トウダイグサ) コヌカグサ (イネ) カワラマツバ (アカネ) カワラハハコ (キク) アキグミ (グミ) など64種類 うち帰化植物 ホソバウンラン(ゴマノハグサ) マルバルコウ (ヒルガオ) ヒメオドリコソウ (シソ) コマツヨイグサ (アカバナ) ミツバベンケイソウ (ベンケイソウ) など27種類
林のへりに生える 植物	シュロ (ヤシ) キカラスウリ (ウリ) オモト (ユリ) サンショウ (ミカン) など15種類	マユミ (ニシキギ) マサキ (ニシキギ) ウワミズザクラ (バラ) カラスビシャク (サトイモ) ツタ (ブドウ) ヒメヤブラン (ユリ) など23種類
林の中に生える植物	フユノハナワラビ (ハナワラビ) ヤブコウジ (ヤブコウジ) 2 種 類	サワフタギ (ハイノキ) 1 種 類

表 2. 最近10年間で浜黒崎一帯に増えた帰化植物 (27種類)

コマツヨイグサ (アカバナ)	ナガハグサ (イネ)	ヒメオドリコソウ (シソ)
メマツヨイグサ (アカバナ)	ナギナタガヤ (イネ)	アレチギシギシ (タデ)
イヌムギ (イネ)	ハルジオン (キク)	オランダミミナグサ
オニウシノケグサ (イネ)	ベニバナボロギク (キク)	(ナデシコ)
カモガヤ (イネ)	ダンドボロギク (キク)	マルバルコウ (ヒルガオ)
セイバンモロコシ (イネ)	ノボロギク (キク)	オノマンネン(ベンケイソウ)
ヒゲガヤ (イネ)	ホウキギク (キク)	ミツバベンケイソウ
ヒゲナガスズメノ	オオオナモミ (キク)	(ベンケイソウ)
チャヒキ (イネ)	ブタクサ (キク)	コメツブツメクサ (マメ)
ハルガヤ (イネ)	ホソバウンラン	ヨウシュヤマゴボウ
	(ゴマノハグサ)	(ヤマゴボウ)

砂浜のおもしろい昆虫たち —浜黒崎海岸の昆虫—

はじめに

昔は、たいへん広い砂浜が広がっていた浜黒崎や日方江の海岸も、海岸侵食が進み砂浜もだんだんと狭くなり、堤防や波消しブロックなどで守らなければならないほどになってきました。

狭くはなってきましたが、浜黒崎から岩瀬浜にかけての海岸は、県内では少ない、まだ自然の残された砂浜があります。一見、昆虫など何もいないように見える砂浜にも、よくみるとそこに生きる特有な昆虫たちがいるのです。

なぎさの近くで

なぎさから海浜植物が生えているところまでは砂ばかりのように思われますが、所々、海藻や流木、またいろんなゴミが打ち上がっています。ゴミのほうが多いほどですが、これらを、ひっくり返してみると、数mmの小さな昆虫がチョロチョロと走り回るのが目につきます。よくみると、体の形で3つほどの仲間に分けられます。

うんと細長いのは、ハネカクシの仲間、ハネがたいへん短くなっています。アカウミベハネカクシ、ウミベアカバネハネカクシなどがよく見られました。平べったくて丸いのは、エンマムシの仲間、ハマベエンマムシが見られました。うんと細長くも平たくも丸くも無いのが、ゴミムシダマシの仲間、その中でもハマヒョウタンゴミムシダマシは体の模様が砂粒にたいへん似ており、じっとしていると見つけられないほどです。これ

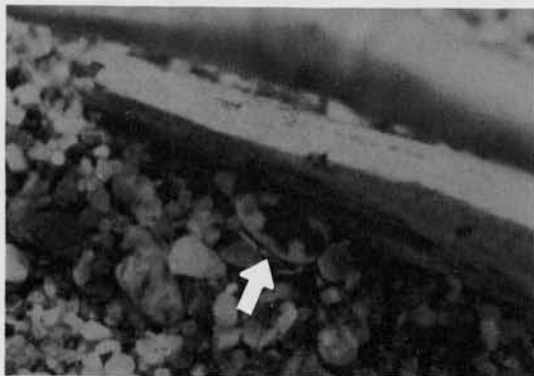


図1. ハマヒョウタンゴミムシダマシ

らの虫は、打ち上げられて腐ったものやそれにつく小動物をえさとしています。

海浜植物のまわり

海浜植物がまばらに生えているところには、砂浜にしかいないバッタが見られました。ヤマトバッタというバッタですが、県内ではいまのところ、浜黒崎から岩瀬にかけての浜でしか見つかっていません。以前は数が多かったのですが、浜が狭くなるにしたがってだんだんと減ってきているようです。このバッタも砂のような色や模様をしており、じっとしているとすぐには気がつかず、足元から飛んで逃げてしまってからようやく気がつくほどです。

砂に模様が似ているといえば、砂浜に生えるイネのなかまにつくスナヨコバイもよく似ています。

富山県ではまだ見つかっていませんが、新潟県や石川県の砂浜にはハマスズという小さなコオロギのなかまがいます。これの模様も砂そっくりです。

このように、すんでいる場所に似せた色、模様で、姿、形をわかりにくくするものを保護色と呼んでいます。今、紹介した砂浜の昆虫も保護色のよい例でしょう。

ハマゴウなどの海浜植物の花が咲くと、ハチのなかまやハナアブのなかまが訪れます。よく目につくのは、大型で腹の長いツチバチ類や小型の腹に毛をたくさん生やしたハキリバチ類です。ツチ

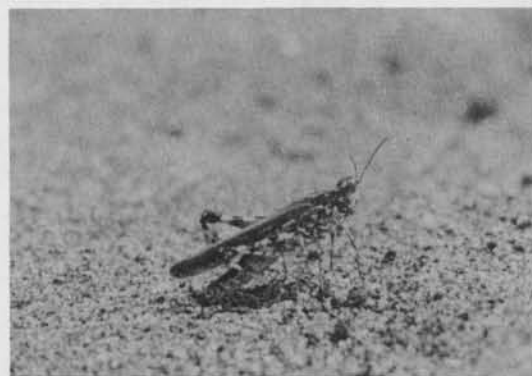


図2. ヤマトバッタ

バチは砂地の中にあるコガネムシの幼虫に卵を産みつけます。ハキリバチは砂地に穴を掘って花粉を集め巣を作ります。

ガヤチョウもみつを吸いにやってきます。多くのものは、花に止まってみつを吸いますが、スズメガの仲間は花には止まらず、ヘリコプターのよ



図3. ウバタマムシ

うに空中で停止しながらストローのような長い口を伸ばしてみつを吸います。



図4. ショウリョウバッタ

を飛んでいることもあります。この2種の幼虫はマツの枯れ木や倒木に着くもので、産卵する木を探しているのでしょうか。

クロマツの根元で

クロマツの林近くには、少ないながらエゾエンマコオロギがいました。このコオロギは家のまわりや公園で普通にみられるエンマコオロギに形はそっくりですが、色はより黒く少し小型です。鳴き声も違い、単調な鳴き方をします。エゾエンマコオロギはその名前のように北方系のもので、福井県北部が分布の南の端になっています。富山県内では他に氷見市島尾からも見つかっていますが数は少ないようです。クロマツ林から内陸側には、エンマコオロギしかおらず、エゾエンマコオロギは砂浜からクロマツ林にかかるほんの狭い範囲でしか見られませんでした。

マツの根元の砂地にアリジゴクの巣を見ることがあります。すりばちのようにくぼんだ真ん中をすくってみると、アリジゴクが見つかりました。そっと砂の上に置いてやると、カーブを描いて後ずさりしながら砂の中に潜っていきます。砂浜で見られるアリジゴクはニセコウスバカゲロウもしくはクロコウスバカゲロウとよばれる種類です。

アリジゴクにはすりばちのような巣を作る種類のほか、巣を作らないで砂の表面近くに潜りながらはいまわりえさを探すものもあります。コカスリウスバカゲロウやオオウスバカゲロウですが、こちらの方は見つけるのは容易ではありません。

マツの木には

密にクロマツが生えているところの林床は、暗く、松葉がおおっていて下草はほとんど生えてい

草地で目につく

クロマツ林の間や草地、疎林の林床には、平地に一般的に見られるのと同様の昆虫がいました。たとえば、ショウリョウバッタ、オンブバッタ、クルマバッタモドキやキリギリス、オナガササキリ、エンマコオロギなどのバッタやキリギリスの仲間などです。草花には、フタモンアシナガバチなどのハチ類、オオハナアブなどのハナアブ類のほか、キアゲハ、モンシロチョウ、モンキチョウやベニシジミ、ルリシジミ、ヤマトシジミなどのわりあい普通に見られるチョウ、またアオスジアゲハ、モンキアゲハ、ジャコウアゲハといった南方系のチョウも見られました。しかし、草地が以前より少なくなってきたようで、チョウの数も以前よりは減ってきているようです。

おわりに

富山県は隣の新潟県や石川県にあるような、大きな砂丘や砂浜がありません。そのため、砂浜特有の昆虫も両県に比べると少ないようです。しかし、いろいろな昆虫たちが、狭くなったとはいえ、富山市の浜黒崎から岩瀬浜にかけてまだ残る砂浜に生きています。ですから、この地域は、富山県内では、たいせつな所といえるでしょう。狭くなってくると、どうしても人手が入りすぎるようになりますが、自然の部分ができるだけ残して、砂浜に生きる昆虫たちがいつまでも見られるようにしておきたいものです。

(担当：根来 尚)

小動物たちの移り変わり

はじめに

海の中にいる小動物や松林の小動物はふだん目立ちませんが、環境の変化によりその顔ぶれや数が変化しています。

海岸動物

浜黒崎の海岸はきれいな砂浜の続くことで有名な場所です。砂浜にも多くの動物がすんでいます。浜黒崎の波打ちぎわでもっとも数が多いのはヒメスナホリムシで、最近、数が増えたようです。砂の中に入って、人目につきにくいのですが、砂を掘り起こすと、あわただしく砂に潜っていくようすを観察できると思います。

しかし、10年前、多く見られた、アミ類やヨコエビ類はかなり減ってしまったようです。砂浜は水を自然にきれいにする働きがありますが、これらの動物たちも、そのことに大きな役割をはたしています。

さて、富山湾の海岸は、どんどん侵食されていますので、波消しブロックや突堤がたくさん置かれ、一部は海浜そのものがコンクリートで護岸されてきました。すると砂浜にいた動物に代わり、もともとは岩の多い海岸の動物たちが増えてきました。波消しブロックには、マガキやヨーロッパから来たムラサキイガイがびっしりついていました。これらの貝やアメリカフジツボ（甲殻類の仲間）などは、多くの川の水で塩分の薄くなった水を好むらしく、浜黒崎から岩瀬にかけての海岸に

多数見られました。また、これらの動物を食べに来るレイシガイやイボニシの肉食性の貝も多く見られます。さらに、これらの貝や海藻の茂るすきまには小さな動物がすんでいます。10年前の調査ではマルエラワレカラという甲殻類やクマドリゴカイがもっとも多かったのですが、今回の調査では、かわってニセスナホリムシがたくさん見られました。その理由はわかりません。

ほかに10年前のようすと特に変わった所はないようです。

また、今回は浜黒崎海岸一帯の打ち上げ貝類を調査しましたが、巻き貝11種、二枚貝19種類の計30種類とタコの仲間のアオイガイ（カイダコ）でした。特に多いのはムラサキイガイ、カキ、レイシガイ、イボニシなど波消しブロックについている貝でした。また、ブロックの少ない日方江や大村ではサルボウガイやカバザクラなど、砂地の海底にすむ貝が見られました。

松林の中の小動物

浜黒崎の松林は海岸の林で、市街地や里山とはずいぶんようすが違います。クロマツの落ち葉の下にはワラジムシとエゾフジヤスデが非常にたくさん見られます。特にワラジムシがとて数多く、冬の雪の下でも盛んに活動し、雪の上をはい回っているのも見かけました。

10年前の調査と比較して全体に同じような様子ですが、横越の雑木林にニホンヒメフナムシやニ



図1. ニセスナホリムシ



図2. ムラサキイガイの多い突堤

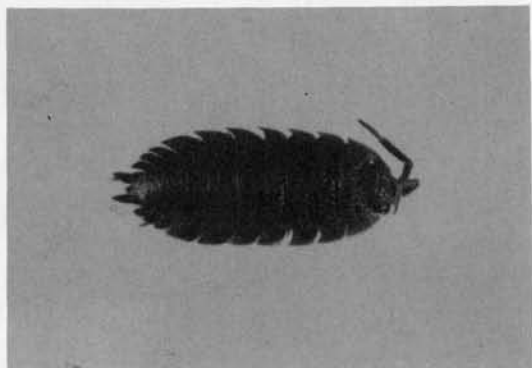


図3. ワラジムシ

ホンヒメハマトビムシも見られました。これらは10年前もかなりがんばって探しましたが、全く見られなかった種類です。これらの種類は「最もよく自然の残って居る場所に見られる種類」とされているものです。また、一部にエゾフジヤステがたいへん多い場所がありましたが、この理由もわかりません。また、数は少ないグループですが、カニムシやザトウムシについても専門家の先生に種類を調べていただき、この地域に見られる種類がわかってきました。

なお、浜辺の打ち上げ海藻の下にすむハマトビムシの仲間やハマダンゴムシも多数、見つかりました。これらは、打ち上げられた海藻やゴミ、およびそれにつく微生物などを食べているのですが、近年はプラスチックやガラス、金属、発泡スチロールなどのゴミが多く、これらの虫たちも全く歯が立たないようです。ハマダンゴムシは、砂と同じ色をしていて、見分けが付きにくい虫です



図5. ドブガイ

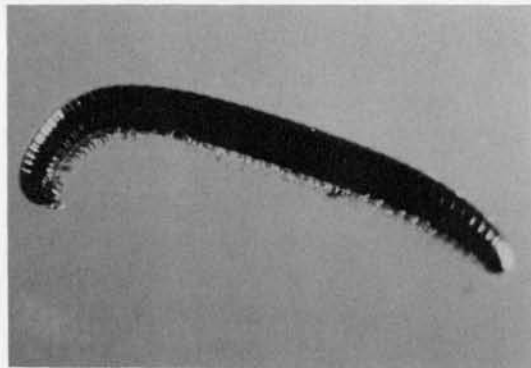


図4. エゾフジヤステ

が、10年前より幾分、増えたような気がします。

小川の小動物

小川の調査は今回初めて行われましたが、現在の富山平野では非常に少なくなってしまったドブガイやドブシジミ、ヌマエビなどが見られました。これらの小動物はかつては、富山平野の小川に普通に見られたものですが、近年の河川の改修と汚染により、ほとんど見られなくなったものです。この地域の小川は県内では貴重なものと言っていでしょう。

(担当：布村 昇)

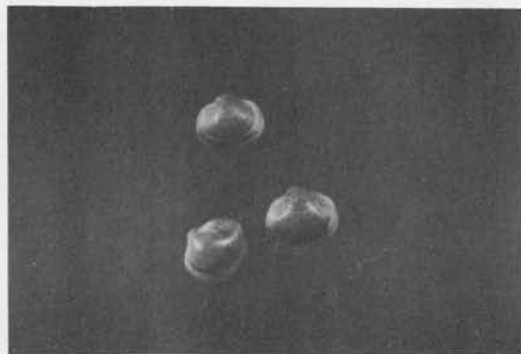


図6. ドブシジミ

さまざまな環境にすむ動物たち

はじめに

浜黒崎には松林や小川、砂浜などがあり、そこにはさまざまな野鳥やほ乳類、魚などがすんでいることが今回の調査でわかりました。

種類が豊富な野鳥

浜黒崎では130種もの野鳥がみつかりました。これほどたくさんの野鳥が見つかったのは浜黒崎海岸には、松林、砂浜、常願寺川という大きな河川など鳥たちが生活するためのさまざまな場所があることや、オオルリなど夏鳥の中継点になっているためでしょう。代表的な鳥には次のものがありました。

- ・最もよくみられた鳥：アオサギ、カルガモ、ホオジロ、カワラヒワ、キジバト、キジ、ハクセキレイ、モズ、シジュウカラ、ツバメ。ただし、夏鳥のツバメ以外は年中みられる鳥です。

- ・富山県で初めて見つかった珍しい鳥：ヤマシヨウビン、アカガシラサギ

- ・山地にすみ平野部ではあまり見られない鳥：アリスイ、ツツドリ、ノゴマ、サンコウチョウ、ノジコなど。

また、四季を通してみると、松林では、春から夏にかけてカワラヒワやホオジロなどの子育ての場所として、冬に山からおりてくるアカゲラやトラツグミなどの休息場所としても大切なことがわかりました。ヨシ原で「ギョギョシ」とよく鳴い

ていたのは夏鳥のオオヨシキリです。カッコウも姿や鳴き声がきかれました。常願寺川河口では10月頃から、冬鳥のカモの仲間がよく見られるようになりますが、水面一面がカモやカモメで埋まる風景は、浜黒崎の冬の風物詩といえます。春と秋の渡りの途中で一休みしていくシギの仲間も海岸でみられます。海岸からはなれますが、近くの「サギの森」には、アオサギやコサギなどの巣が木の上や枝の間にあり、春には巣の材料をくわえて飛んでいるサギの姿を観察できます。

ノウサギもいた

松林を歩いていると、休んでいたノウサギが急に飛び出してきてびっくりすることがあります。タヌキは今回の調査ではみつかりませんでしたので、ノウサギが浜黒崎で最も大きなほ乳類です。ノウサギは、松林ばかりではなく、水田地帯も生活場所にしているようです。

ドブネズミは、家の周辺にすみつていますが、小さなかわいいノネズミのアカネズミとハタネズミもみつかりました。アカネズミは森林に、ハタネズミは草地にすむノネズミです。土手の近くをイタチが走り去っていったこともあります。好物のネズミを探していたのでしょうか。一見ネズミにまちがえそうですが、モグラの仲間のジネズミもみつかりました。これらの人目につきにくい小さな動物たちも、夜になると松林の地面の上を



図1. コチドリ (日出嶋哲夫氏撮影)



図2. カッコウ (日出嶋哲夫氏撮影)



図3. アカガシラサギ (酒井昌則氏撮影)



図4. ナマズ

走り回っていることでしょう。

ナマズにびっくり

浜黒崎には、村川、ビワ川、諏訪川などの小さな河川が富山湾に注いでいます。河川改修された川では、ウグイやハゼのなかがわずかにみられたに過ぎません。

ところが、今回の調査中に小川の深みを何気なくのぞくと、巨大な黒い物体を見つけ、一瞬びっくりしました。ナマズだったのです。ナマズは、今ではほとんどみることでできなくなった魚です。ナマズが生きていたのは、この小川が昔ながらのくいでささえてある土の土手で、近くには沼があったためなのでしょう。また、メダカやフナなど、昔はどこにでもみられた魚もみつかりましたので、ナマズはこれらの小魚をえさにしているのかもしれない。この小川は、富山市でも最も昔の面影をよく残した貴重な小川で、魚の楽園といえるでしょう。

沼には、クサガメもよくみられ、アメリカ原産のウシガエルもみつかりました。水田にはアマガエル、トノサマガエルのオタマジャクシがみられました。昔ほどは多くないようです。堤防や海岸の日当たりのよい草地には、トカゲの仲間のカナヘビがよくひなたぼっこをしていました。シマヘビが川を泳いでいたこともあります。

常願寺川の河岸の浅瀬には、ハゼの仲間がよくみられました。サギの仲間が立っている姿をよくみかけますが、ハゼの仲間を餌にしているのでしょう。秋には、川をのぼってくるクロダイの姿をみることもあります。

波消しブロックがすみか

夏の終わりに浜黒崎のユースホテル付近を潜ってみました。意外なことに石や崩れたコンクリートのブロックがあり、そのまわりをイシダイやクロダイ、ベラの仲間が泳いでいました。これらの魚は、岩場で見られる魚たちです。波消しブロックや石が置かれたために、人工的な岩場ができ、これらの魚が増えたのでしょう。

常願寺川の河口にも似たような場所があり、石のすき間にアゴハゼやミズハゼなどのハゼの仲間、メジナがみられました。浜黒崎一帯の海岸には、砂浜にすむマコガレイやネズミゴチもみられますが、人工的な岩礁である波消しブロックが置かれたために、岩礁の魚もすみついたのでしょう。

おわりに

浜黒崎一帯は、松林と、それをとりまく海岸や常願寺川、民家など、いろいろな環境があり、さまざまな動物たちが生活を営んでいます。10年前と比較して、動物の顔ぶれには大きな変化はみられませんでした。今回の詳しい調査によって、富山平野の中では、動物が多い地域ということがわかってきました。

(担当：南部久男)

お 知 ら せ

📡 プラネタリウム

「接近、ブラックホール」

突然、太陽系のすぐ近くに出現したブラックホールが、地球に向かってきます。人類はこの危機をのりきることができるかという物語と春の星座の紹介。

期間：3月12日(火)～6月9日(日)

📡 天文教室

全て、場所は呉羽山付属天文台。時間は19時～21時です。

「木星を見る会」

開催日：4月18日(木)～20日(土)

「金星と木星を見る会」

開催日：6月6日(木)～8日(土)

対象：一般、申込不要

雨天：曇天の場合は中止

「月や惑星を写そう」

天体望遠鏡で月や金星、木星の写真を写します。

開催日：5月25日(土)

対象：中学生以上一般

雨天・曇天の場合は順延 定員：15名

申込〳切：5月17日(金)

📡 天文台公開観測会

開催日時：5月14日(火)～18日(土)19時～21時

場所：呉羽山付属天文台。対象：一般

雨天・曇天の場合は中止 申込不要

🎵 シンセサイザーコンサート

プラネタリウムの中でしんきろうをテーマにした曲をシンセサイザー演奏と映像で楽しめます。

開催日時：6月8日(土) 1回目19時～

2回目20時～

対象：一般 定員：各250名 申込不要

シンセサイザー演奏：滝沢 卓氏(魚津市)

入館料がいます。

🏞️ 自然教室

小学生は保護者の同伴が必要です。

「早春の生き物をたずねて」

早春の丘陵を歩き、活動しはじめた動植物を観

察します。

開催日時：4月14日(日) 10時～14時

対象：小学生以上一般 定員なし

申込〳切：4月6日(土)

「初夏の美女平」

野鳥観察コースを歩きながら、春のブナ林の植物や鳥などを観察します。

開催日時：5月26日(日) 10時30分～15時

対象：小学生以上一般 定員 100名程度

申込〳切：5月18日(土)

「浜黒崎の野鳥観察会」

初夏の浜黒崎に集まる野鳥を観察します。

開催日時：6月2日(日) 9時30分～13時

対象：一般 定員なし

申込〳切：5月25日(木)

🌿 自然入門

「薬草を学ぶ」

開催予定日：5月21日(火)・5月22日(水)

場所：科学文化センター、猿倉山

対象：一般成人 定員：40名

申込〳切：5月14日(火)

🎞️ 科学映画会

開催日時：毎月第2日曜日

11時30分～12時、15時～15時30分

「富山湾その神秘とロマン」4月14日

「ギンヤンマの生活」5月12日

「食中毒を防ぐ」6月9日

👶 子供映画会 5月5日

生きものの生活をやさしく、おもしろく紹介します。

行事への参加申込方法

場所の指定のない行事は当館内で開催します。

教室に参加ご希望の方は、往復ハガキに住所、氏名、年齢、電話番号、教室名をご記入の上、各締め切り日までに〒939 富山市西中野町1-8-31 富山科学文化センターまでお申込ください。

申込が定員を超えた場合は抽選させていただきます。